

パウダーレスインキ「キレイナ」の実力 (広告)

5. ダブルデッカーでパウダーレスへ [西川コミュニケーションズ]

西川コミュニケーションズ(株)(西川輝男社長、従業員280人)は名古屋市内に本社を置き、1906年創業の老舗印刷会社だ。今では、企画・制作・印刷だけでなく、それらを支えるIT技術、また顧客情報を収集するコンタクトセンター、さらに企画へとつなげる分析・マイニングまで、総合的に企業をサポートする事業を行っている。

「あれっ、もうセットしている」

印刷は、名古屋中心地から車で25分ほどの愛知県東郷町で1997年から稼働を始めた「グラフィックアーツセンター」で行っている。プリプレスではCTP、印刷ではニスコーター装置、ポストプレスでは中綴じ機や無線綴じ機、POPにおもに使われる打ち抜き機など、一通りの設備は揃いトータル的にサポートを行っている。枚葉印刷機は、菊全判の4色、5色の両面専用機各1台、5色UV機2台など。両面専用機の1台は水なし印刷を、UV機では本機校正も行っている。

なんといっても、大手自動車メーカーの仕事が多く、その印刷の物量は印刷会社としてうれしい悲鳴状況である。しかし、世界に誇る日本の自動車メーカーだけあり、「品質」の厳しさも非常に高い。

車のカタログは、絵柄が重く、濃度の高いものが多い。そのため、印刷現場は常に濃度の変化や地汚れを気にし、両面印刷でのグロスゴーストや裏移りを心配していた。同社では、UV機は小ロットものや校正に使い、自動車カタログなどの大ロットのものは油性オフセット印刷と方針を立て

ており、パウダーの散布量も半端ではなかった。カタログはパウダーでザラザラとなっていたが、事故防止のためには致し方なかった。そこに、T&K TOKAからパウダーレスインキ「ベストワン「キレイナ」」の情報が入る。

6月に、パウダーレスインキにてテスト刷りを行った協力会社を訪問した。パウダーの削減効果を目の当たりにできたが、両面印刷でのグロスゴースト対策にキレイナが効果があることを知り、見学後、「善は急げ。すぐにやってみよう」と、パウダーレスでのハードルが高い両面専用機でキレイナを試した。

「正直、驚きを隠せませんでした。」石原哲郎・製造部次長は話す。テストを兼ねた大ロットの本刷りを行ったが、周りで話している間に、「あれっ、もうセットしている」という状況だったという。そして、パレット一山の印刷後に裏移り・ゴーストを検査するが、まったく発生していなかった。

キレイナは特殊樹脂により従来インキより溶剤の用紙へのセット乾燥が速く、両面印刷でのゴースト発生を抑えられることも大きな特徴と言える。



「キレイナ」を使っている両面専用機

掃除時間が減った

以前は、パウダーのボタ落ちの事故がかなりあったという。そのためグラフィックアーツセンターでは、毎日デリバリを掃除しようということになり、その結果ボタ落ち事故は減った。2時間を1日2回、デリバリを掃除する日々が続いた。デリバリ以外の掃除は週末に行った。治部彰・製造部部長も石原次長も、その掃除の時間をなんとか減らして生産に当てられたらと思っていたのだが、キレイナにすると明らかに掃除の時間も減った。

パウダーレスなので、工場内や印刷機周りがきれいになったという相乗効果もある。

実は、西川コミュニケーションズでは、パウダー散布量はゼロでは使っておらずキレイナでは現在30%程度の量でパウダーを散布している。これでたいいものが刷れる。実際は20%でも十分可能なようだが、20%では装置の性能のためか、スプレー装置が止まってしまう。これまではパウダーを70%は吹いていたというので、事故の減少や清掃時間の削減で、その効果は大きい。

グラフィックアーツセンターは、UV機を除きインキはパイピング供給している。使い始めたキレイナにはまだすべて置き換わってはいないので、1kg缶から手でインキ壺に入れるのは面倒くさい。それでも現場は、「キレイナをもっと使いたい」と言ってくるほどだ。ゴーストが出やすい絵柄も

問題なく、実績はどんどん上がっている。

さらに現在、水なし印刷両面機においてもキレイナをテスト中だ。

「ゼロ」に向けて

同社ではキレイナはまだ主流ではない。今後、「いろいろな紙をテストしたい」(治部部長)とのことだ。また、ブラン残りや耐刷力のデータも西川コミュニケーションズとしてはとっていないので、現在は観察する目を養いながらの使用という。

前述のように、パウダーは70が30になった。さらなるパウダー削減に向け、工場側では、①品名、②用紙名、③サイズ、④絵柄面積率、⑤パウダー設定量、⑥インキセット時間、⑦ブラン残りの有無、⑧ブラン洗浄枚数、⑨刷版の耐刷(摩耗)、⑩通常インキとのパウダーの削減比率、などの項目でテストを進めている。

チェックリストでデータを抽出し、メリットが大であれば「パイピングしたい」(治部部長)。「オペレータの負担も減らせる。現場ももっと使わせてくれ、と言っている」(石原次長)。

1日4時間の掃除の時間が明らかに半分以上減った、という実績はある。今後、パウダー量を減らしていくにも、スプレー装置の都合上、20で止まってしまうので、30→0にしていく確認方法が同社の課題ともいえる。(つづく)

革新的なパウダーレスインキ「ベストワン KIRÉINA」誕生。

キレイナ印刷
キレイナ加工
キレイナ機械
キレイナ工場

BEST ONE
KIRÉINA

T&K TOKA

株式会社 T&K TOKA <http://www.tk-toka.co.jp>
TEL 049-258-1611(代表) 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 〒354-8577